



水 稲 管 理 情 報

中干し編

田植え後1ヶ月経過で、
中干し開始!!

令和2年5月
J A 志 賀
能登南部営農推進協議会

1 生育概況

・本年の田植え作業は4月28日に始期を迎え、前年よりも2日早い5月4日に盛期を迎えました。大型連休中は天候に恵まれ、大半のほ場で苗は活着し生育は順調です。

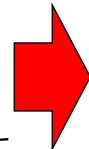
2 [重要]中干し適期開始について

・『中干し』は米の品質や収量を左右する最も重要な管理作業です。

中干し開始の遅れ・未実施は、未熟粒の原因となる「弱小分げつ」や穂にならない「無効分げつ」を増加させます。また、登熟期間の養水分の吸収に必要な根の発達も不十分となり、結果的に未熟粒やくず米の発生を助長し、品質・収量の低下を招きます。『中干し』の重要性を再認識し、志賀産米のさらなる品質向上を目指しましょう!!

中干しの効果

- ・無駄な分げつの発生を抑制し、過繁茂を防ぎます。
- ・秋の実りに働く根が発達し、根の活力が高まります。
- ・過剰な窒素の取り込みを抑制し、倒伏を防ぎます。
- ・田面が固くなり、秋にコンバインで収穫しやすくなります。



乳白粒(白未熟粒)やくず米の発生減少



乳白粒(白未熟粒)

◆中干しの実施

田植え後1ヶ月で中干し開始!

- ・田植え時期や初期の水管理により、分げつの発生に差が生じます。そのため、ほ場ごとに中干し開始適期を確実に把握し、遅れないように必ず実施してください。
- ・中干し開始時期の目安

必ず実施してね!



【中干し開始の目安の株】

茎数が14本の株。上記写真を参考に、ほ場ごとに中干し開始時期を決めてください。



【中干しの遅れ】

中干しの時期が遅れると過繁茂状態になります。



【中干し実施なし】

長靴が沈んでしまいます。稲も地面が見えない程の過繁茂状態です。

品種	開始時期		終了時期	開始時期判断の注意点
	1株当たり茎数	平年		
コシヒカリ	14本	6/5頃	7/10頃	① <u>植え後1ヶ月</u> 、または、② <u>左記の茎数に達した時期</u> のいずれか早い方にあわせて実施し、額縁や滞水する箇所には溝切りを実施してください
早生品種	16本	6/7頃	6/30頃	
ひやくまん穀	14本	6/5頃	7/20頃	
(根拠)	目標穂数[<small>コシヒカリ 21本</small> <small>早生 24本</small>]の70%時点		幼穂形成期	

・中干しの程度

ほ場条件	程度と方法	開始時期と継続期間	注意点
一般田	田面に小さなヒビが入り軽く足跡が付く程度	※前記のとおり	葉色が濃い場合や分げつの発生が止まらない場合は、期間を超えて中干しを継続してください。
高地力田・湿田・生育過剰田	強め(大きなヒビを入れない程度)	一般田よりやや早めに開始、やや遅めに終了	
漏水田・砂質田・用水不足地域	田干し程度	一般田と同様	

◆中干し開始までの水管理

・浅水管理(水深1~2cm)で分げつの発生を促します

苗が活着してからは、早期に有効茎(充実した穂となる茎)を確保するため、浅水管理(水深1~2cm)で水温・地温を高めましょう。※ 深水(水深3~5cm)は分げつの発生を妨げます。

・晴天時には中干し前から「軽い田干し」を行い、中干しの開始に備えましょう

軽い田干しとは土の表面が乾かない程度に通排水することで、**特に有害ガス(わき)が多いほ場では積極的に実施**してください。用水の利用が限られる場合は、用水を利用できる前日に干すなど、計画的に行ってください。

◆溝切り作業の実施

溝切りの効果

- ・迅速な通排水ができ、中干しの効果が高まります。
- ・登熟期に迅速なかん水ができ、飽水管理を手助けします。

- ・溝切りは、額縁及び10条に1本の割合で実施しましょう。
- ・溝と溝、溝と排水口(水尻口)は、しっかりと連結しましょう。
- ・田面をある程度固く(落水1~2日後)してから溝を切り、6月中旬に同じところを再度切り直しましょう。



乗用溝切機を使用した溝切りの様子

3 中間追肥の施用

志賀管内の問題

- ・高温や日照不足等の異常気象が続発傾向
- ・稲体が異常気象に強くなるためのリン酸やケイ酸が少ない

収量・品質の低下要因につながる

対策

異常気象に強い稲体づくりのため、**中間追肥を必ず施用しましょう!**

肥料名	施用時期	施用量	効果
PK けいさん (0-13-11 ケイ酸 17)	6月中旬	40 kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> ・基肥一発肥料のリン酸・カリの供給補正 ・稲体が強固になり、病虫害抵抗性や耐倒伏性が向上 ・根張りや受光体勢が良くなり、登熟が向上

※ 「BB けい酸パワー・コシー発くん」(ケイ酸 12%配合)以外の肥料(有機入り能登コシー発、新早生一発くん、ひやくまん穀一発くん等)を使用した場合は、リン酸やカリ、ケイ酸が不足するので、必ず施用しましょう。

4 ほ場周辺の雑草地の除草

◆除草の徹底によりカメムシ生息数を減らし、斑点米被害を未然に防ぎましょう!

・斑点米カメムシ類による品質低下が大きな課題となっています。斑点米による落等を未然に防ぐため、農道や雑草地の除草を徹底し、斑点米カメムシの生息場所をなくしておくことが重要です。

ポイント1 斑点米カメムシの生息数を減らすため、**6月中にほ場周辺の草刈りを徹底!**

ポイント2 **7月上旬に仕上げの除草を実施!** **一斉除草週間:7月4日(土)~7月10日(金)**

ポイント3 7月11日以降は除草しない!(7月中旬以降の除草は、カメムシをほ場内へ追い込む事になります。

止むを得ず除草する場合は、薬剤防除直前に行いましょう。)

5 中・後期除草剤使用について

対象雑草名	除草剤名	散布量	使用時期・方法
ノビエ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、クログワイ 等	アトリ1キロ粒剤 1成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後14日(稲5葉期)~ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
ノビエ	ヒエクリーン1キロ粒剤 1成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水) 移植後15日~ノビエ4葉期(収穫45日前まで)
マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、オモダカ 等	バサグラン粒剤 1成分	3~4 kg/10a	落水して散布(スポット処理可能) 移植後15~55日(収穫60日前まで)
水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ 等	マメットSM1キロ粒剤 3成分	1kg/10a	湛水散布(7日間止め水)、移植後15日(稲5葉期)~ノビエ3.5葉期(収穫60日前まで)

【重要】マメットSM1キロ粒剤は薬害回避のため、気温が上昇してくる朝や高温時には散布しない。また6月に入ってから散布はしない。

6 その他注意事項

- ・補植用苗のほ場内放置は、いもち病の発生源となるので、早急には場から取り除き、処分してください。
- ・病虫害や雑草が発生した際には、随時防除対応が必要となります。JAにご相談ください。

【農薬の適正な使用について】農薬ラベルに記載してある使用方法以外の使い方をすると法律(農薬取締法)で罰せられます。消費者に安心して安全な能登のお米を食べていただく気持ちをもって、農薬は正しく使用してください。農業用廃プラスチック(使用済みビニール、農薬空容器、肥料空袋等)の野焼きや不法投棄も法律で罰せられますので正しく処分しましょう。